

荒木修先生を悼む

第三回(昭和二十九年)卒業 叶岡 淑子

春たけて訃報悲しく耐えがたし半世紀余の歲月の重み

焼け跡の小津の学舎に覇氣ありき若き教師と夭きわれらの

孫文を魯迅を語り五十年アジアへ吾らの眼を開かせて

魯迅その勁き生きざま教えくれし人生の師は荒木修先生

警醒の鋭き筆致は往年の高知新聞「閑人帳」にも

ほとばしる火炎ありまた弱者へのあたたかき眼を今に忘れず

道なきに道求めつつ暗き時代を歩みてゆかな志を受け継ぎて

(二〇〇四年四月)